

4 樹勢の抑制によるモモの高品質化

ねらいと成果

本県では、中山間地へのモモの導入が増加している。これらの中には、早期成園化に有利な主幹形整枝法を採り入れた水田への植栽事例が多く、樹勢が旺盛なため、果実品質が低下する傾向がみられる。そこで、この対策として環状はく皮等の樹勢抑制処理について検討した。その結果、収穫30～15日前に、主幹部に対して環状はく皮を行うことによって、顕著な樹勢抑制と品質向上効果が得られた。

内容

1 樹勢の抑制処理と効果

供試樹は、佐用郡佐用町の水田転換園に植栽された4年生の主幹形「紅清水」である。収穫予定約30日前の6月26日に、接木部上約30cmの主幹部に対して、環状はく皮接ぎ（幅1cm）および針金による結縛処理（径4mm、2重巻き）を行った。環状はく皮接ぎ区は処理後直ちに皮を元に戻し、黒ビニルテープを巻いて処理部位を保護した。また、針金結縛区は収穫時に針金を除去した。

両処理区は、処理後の副梢発生数や1本当たり伸長量が無処理区の約60%に、総伸長量も40%以下に抑制され、夏季せん定量も減少した（データ省略）。果実重は、はく皮接ぎ区が無処理区と比較して約25%大きく、針金結縛区も有意差はないものの若干大きかった（表1）。また、果汁の糖度も両処理により高くなる傾向がみられた。なお、処理区では軽い渋味のある果実がわずかにみられた。収穫期は無処理区と比べてはく皮接ぎ区が約5日、針金結縛区が3日程度早かった。

表1 樹勢の抑制処理と果実品質(2000年)

| 試験区 | 果実重 (g) | 果皮の着 色程度* | 糖度 (Brix) |
|-------|------------|--------------|--------------|
| はく皮接ぎ | 272a | 3.3a | 13.3 |
| 針金結縛 | 232b | 2.7ab | 12.2 |
| 無処理 | 217b | 2.0b | 11.6 |

*着色面積の割合で無:0～完全:5として評価した。

同一列の異符号間は5%水準で有意 (Tukey)

2 環状はく皮の処理時期と効果

1と同じ園の5年生樹を対象として、収穫予定の約45日、30日および15日前に、接木部上約30cmの主幹部に対して、環状はく皮（幅5mm）を行い、皮を戻さずに黒ビニルテープを巻いた。

副梢の総伸長量は、はく皮処理区が無処理区の46～70%に減少し、特に処理時期が遅いほど少なかった（図1）。果実重には処理による影響はみられず、果汁の糖度は30日前区と15日前区が無処理区より5前後高かった（表2）。また、いずれの区においても渋味の発生は認められなかった。なお、収穫期は45日前区は約10日、30日前区は約7日、15日前区は約4日、それぞれ無処理区より早かった。

今後の方針

処理が生育や収量、渋味の発生等に及ぼす影響、並びに樹体、栽培、気象条件との関係を明らかにし、安定した効果が得られる処理技術を確認する。

水田 泰徳（農業技セ・園芸部）

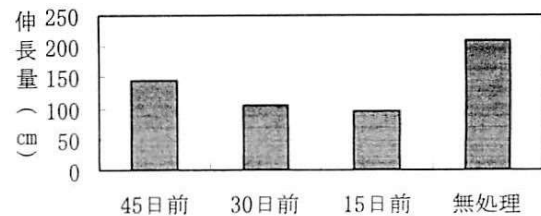


図1 環状はく皮の処理時期と6月下旬以降の副梢伸長量 (ノ当年枝)

表2 環状はく皮の処理時期と果実品質(2001年)

| 試験区 (収穫前) | 果実重 (g) | 果皮の着 色程度* | 糖度 (Brix) |
|--------------|------------|--------------|--------------|
| 45日前 | 203 | 2.3b | 11.9b |
| 30日前 | 203 | 3.8a | 16.3a |
| 15日前 | 206 | 3.9a | 15.4a |
| 無処理 | 207 | 3.3a | 10.9c |

*着色面積の割合で無:0～完全:5として評価した。

同一列の異符号間は5%水準で有意 (Tukey)